



笑顔の連鎖！高齢化の町で産学官民 e スポーツ共創モデル

～フレイル予防×教育×世代間交流×観光振興～



2024 年 8 月 「交流スペースかぐや」での体験会

幼児から 70 代まで幅広い世代が e スポーツを体験

■協働・共創団体の種別

NPO	地縁	社協	学校・ 大学	企業	行政	その他
-----	----	----	-----------	----	----	-----

■協働・共創団体

- ・任意団体EYE・ON ・株式会社 JAPANNEXT
 - ・e スポーツ高等学院 ・TEQWING ・大野荘
 - ・交流スペースかぐや ・千葉県 e スポーツ Hub
 - ・一般社団法人千葉県 e スポーツ連盟
 - ・御宿町 ・一般社団法人御宿町観光協会
 - ・社会福祉法人御宿町社会福祉協議会
 - ・御宿町商工会
- 計12団体

■事業費 30 万円

■資金調達手段 運営団体負担・寄附・イベント参加費

事業概要

千葉県内最高齢化の町・御宿町における「高齢者の孤立・フレイル予防」と「若者の地域参画・デジタル教育」という 2 つの課題を、e スポーツ(ぶよぶよ等)を通じて同時に解決し、町の新たな魅力を創出する「地域振興」および「世代間交流」の産学官民共創プロジェクトである。

「EYE・ON」を中心に、いすみ市に本社を置く「株式会社 JAPANNEXT」から機材提供を受け、「e スポーツ高等学院」の学生がサポートする協働体制を構築。行政の連携で公的な信用も付与。

協働・共創までの経緯

高齢化が進む御宿町で、地域コミュニティの希薄化や過疎化に危機感を抱いた地元の住職(EYE・ON 代表)が発起人となり行動を開始。若者と高齢者が対等に繋がれるツールとして「e スポーツ」に着目。この志に共感した企業「株式会社 JAPANNEXT」が機材提供を、御宿町に本校を置く中央国際高等学校の提携校「e スポーツ高等学院」が学生の社会参画の場として協力を快諾した。住職の呼びかけから「産・学」が繋がり、行政も後押しする持続的な共創の輪へと発展した。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ① 世代間交流として e スポーツ体験会(2025 年 6 月、8 月、11 月、2026 年 5 月など不定期開催)
- ② フレイル予防として健康ゲーム指導士による e スポーツ体験会実施(2025 年 2 月、10 月)
- ③ 地域振興にも繋がる競技者向け大会を実施(年 1 回開催。2024 年、2025 年、2026 年 5 月)

※上記の他、町内の最明寺を会場に、e スポーツ体験会を本年 7 月から月 1 回程度実施予定。

🔗 協働・共創団体内での役割分担

【任意団体】EYE・ON…各行事の企画、運営

【近隣企業】株式会社 JAPANNEXT、TEQWING

…イベント用モニター提供、イベント協力、情報発信

【町内企業】大野荘…イベント副賞に地域特産品提供

【学校】e スポーツ高等学院…イベントスタッフ等

【地縁団体】交流スペースかぐや…イベント会場提供

【町内組織】御宿町観光協会、商工会…情報発信

【行政】御宿町…後援、情報発信

【社協】御宿町社会福祉協議会…フレイル予防イベント

【その他県内組織】千葉県 e スポーツ連盟、

千葉県 e スポーツ Hub…後援、情報発信

🔗 協働・共創事業によって生まれた成果

高齢者層には、社協等との連携によるフレイル予防とお寺を拠点とした「孤立を防ぐ居場所」を提供。学生層には、イベント参加を通じた地域貢献や多世代コミュニケーションの機会の提供。さらに、地元企業や観光協会との連携、大会開催により、町外からの人流を創出。過疎・高齢化の課題を「e スポーツを通じた多世代共創」という御宿町の新たな魅力へと昇華させた。

🔗 今後力を入れていきたいこと

○県内に複数ある e スポーツ関連学校や大学との更なる連携により、若年層を地域課題の担い手として育成

○e スポーツ関連団体や各地の寺院とノウハウを共有し、「御宿モデル」を過疎地共創の先進事例として発信



老人クラブ、社会福祉協議会での「太鼓の達人」体験



©SEGA Tetris ® & © 1985~2026 Tetris Holding.
プロ選手含め 50 名程が参加した「御宿ぷよテト祭り」

♡ コラボのコツ!!

★コツ1 世代をまたぐ共通言語としての、「ぷよぷよ e スポーツ」の採用

e スポーツの選定にあたり、過激な表現が少なく、30年以上の歴史と知名度を持つ「ぷよぷよ」を主軸に採用。子どもは可愛いキャラクターに親しみ、大人は過去を懐かしみ、高齢者はパズルゲームとして頭や指先を使う。この選定により、年齢の壁を越えて誰もが同じ目線で楽しめる「共通言語」としての場が実現した。

★コツ2 各主体の強みを活かし、共創の全員にメリットがある仕組みづくり

主催団体ですべてを抱え込まず、企業には「製品や技術の PR」、学校には「学生の実践教育・社会参画」、社協には「福祉の成果」というように、各主体の得意分野と目的を一致させ、全員が主役になれる関係性を構築したこと。

★コツ3 伝統的インフラ（お寺）と公的信用の掛け合わせ

地域の拠り所である「お寺（住職）」という元々ある信頼と安心感を土台にしつつ、行政や社協、商工会と初期から丁寧に連携したこと。これにより、e スポーツという馴染みの薄いイベントながら「公的で安心な地域事業」としてのブランドを早期に確立できた。

協働・共創事例プロフィール

【活動開始年】2024 年 4 月 【活動の PR 手法】X アカウント(https://x.com/EYE_ONjuku)

ぷよぷよのコミュニティサイト(<https://puyo-camp.jp/users/321243/posts>)

【この事業で活用した補助金】なし

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】千葉日報(2025 年 5 月)、テレビ東京「いい eeeee パーク」(2025 年 12 月)等

【問い合わせ先】担当者:EYE・ON 松崎馨田 電話番号:090-3685-0482

メールアドレス:eye.onjuku@gmail.com